◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

◇　　近畿ゆめ通信　第２７８号　　◇

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

◇◆----------

本メールマガジンは、近畿地方整備局管内の市町村長様をはじめ、
日頃から当局にご指導等をいただいております団体、個人の方々に
送信させていただいております。
皆様からのご意見ご感想をお待ちしています。

mailto:　otayori@kkr.mlit.go.jp

----------◇◆

２０１６年　５月１０日

目　　次

１．「はじめまして」
近畿地方整備局　副局長　朝比奈 志浩

２．「関西を“元気”にする道路プロジェクト」
近畿地方整備局　道路部長　石原 康弘

３．「出水期への備え」
近畿地方整備局　淀川河川事務所長　桑島 偉倫

４．「神戸港の歴史紹介－着任挨拶に代えて」
近畿地方整備局　神戸港湾事務所長　小野 正博

５．最近の動き
【１】熊本地震災害対応（先遣隊）について
企画部　総括技術検査官　板垣 勝則

【２】大規模土砂災害による被害根絶に向けて
近畿地方整備局　紀伊山地砂防事務所長　吉村 元吾

６．おたよりコーナー
『近畿の昔話』－　「千日道路」―王寺跨線橋の架け替え－　高野 浩二

７．事務局から

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇
　１．「はじめまして」
◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

　近畿地方整備局　副局長の朝比奈志浩です。

　４月１日付けで近畿地方整備局副局長を拝命しました朝比奈志浩です。どうぞよろしくお願いいたします。
　「志浩」は「ゆきひろ」と読みます。子供の頃は、こんな読み方は日本中に私だけと思っていましたが、ネット検索すると何人かいらっしゃるようです。社会人になってからは、名刺交換の際に話題にして頂けることもあり、重宝しています。
　本籍は両親出身の滋賀県にありますが、私自身の関西住まいは、前々職（本四高速（株））での神戸に続き、ようやく二度目です。休日には管内を巡り歩いて、早く土地勘を得たいと思います。
　着任２週間で発生しました熊本地震。近畿地整としての対応は別途担当官の報告がありますが、犠牲となられた方々に哀悼の意を表しますとともに、今なお不自由な生活を強いられている皆様に心からお見舞いを申し上げます。
　さて、先日、（一財）建設経済研究所の講演を拝聴する機会を得ました。いずれの演目も示唆に富むものでしたが、「建設技能労働者の現状と人材確保に向けた課題」と題された下山総括研究理事さんの講演では、「人材確保に向けた課題」として「週休２日」「若手技能労働者の確保・育成」「女性の技能労働者の更なる活躍の促進」の３点に焦点を当てて、現状が分析されていました。例えば、地方公共団体発注工事においても「４週８休」となっている現場は５％足らずで、これでは若手の定着は困難ではあるが、その一方で、休業によって収入が減ってしまっては逆効果であること、仕上系業種は工期末のためどうしても突貫工事になりがちなこと等、掛け声だけでは休日の増加は望めないという現場の声が紹介されていました。発注者としても適正な工期設定・変更について、十分に議論することが必要とのことでした。
　また、全産業の平均と比べて、団塊世代の比率が高い建設技能労働者は、今後一気に人材不足になるため、若手の確保、女性の更なる活躍促進が求められます。もちろん、個々の企業の努力は必要ですが、社会全体としての意識改革も重要であると感じました。地域や教育の場において、建設産業に対する理解をより深める活動が望まれると思います。このほか、建設技能労働者の社会保険等未加入対策についても触れられていました。その他詳細は同研究所のＷＥＢサイト
（http://www.rice.or.jp/regular_report/construction_economic_report.html）に掲載されている「建設経済レポート（Ｎｏ．６６）」の第２章をご覧下さい。

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇
　２．　「関西を“元気”にする道路プロジェクト」
◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

近畿地方整備局　道路部長の石原康弘です。

今般発生した熊本地震により、犠牲となられた皆様に深く哀悼の意を表すると共に、被災された方々、関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。被災地の一刻も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

さて、平成２８年度予算が成立しました。近畿地整局道路関係予算は、直轄事業で約１，７８１億円、補助事業で約１１８億円であり、これにより、関西を“元気”にするためのプロジェクトを進めていきます。

今年度完成を予定している主な事業としては、高規格道路として、大和御所道路（京奈和自動車道御所南 IC～五條北 IC）7.2km、紀北西道路（同道岩出根来 IC～（仮）和歌山 JCT）6.5km、永平寺大野道路（中部縦貫自動車道永平寺 IC～上志比 IC）5.3km、八鹿日高道路（北近畿豊岡自動車道（仮）日高 IC～八鹿氷ノ山 IC）9.7km があります。また、一般国道の改築事業としては、国道 26 号第二阪和国道（淡輪ランプ～平井ランプ）7.6km、国道 480 号鍋谷峠道路 4.1km（権限代行事業）、国道 175 号平野拡幅 1.3km などがあります。現在、最後の仕上げの工事を進めているところですが、何れの事業につきましても、関係者の皆様のご支援、ご協力により完成の目途が立ちました。ありがとうございます。早期のストック効果を発現するため、一日も早い完成を目指していきます。

新規事業化した主な事業としては、豊岡道路（北近畿豊岡自動車道）2.0km、大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド北～駒栄）14.5km、国道 169 号伯母峯峠道路 2.9km（権限代行事業）、同奥瀞道路（Ⅲ期）3.4km（同）、国道２号若宮橋架替などがあります。何れの事業も地域経済の起爆剤として、また、生活環境の向上に資する重要な事業です。関係する事務所において事業を進めて行きますので、ご支援、ご協力のほどお願いします。

道路調査を実施している播磨臨海地域道路（兵庫県）については、優先区間の絞り込みを行うため、５月９日に地方小委員会を開催したところです。また、名神湾岸連絡線（兵庫県）、国道８号彦根・東近江間（滋賀県）、宇治木津線城陽・木津川間（京都府）については、概略ルート・構造の検討を、淀川左岸線延伸部（大阪府）については都市計画・環境アセスメントに係る調査を進めていきます。更に、積雪による交通障害等の課題のある国道８号南越前・敦賀間（福井県）については対策の検討を、和歌山都市圏については、京奈和自動車道延伸も含め、幹線道路ネットワークの検討を実施することとしています。また、山陰近畿自動車道の府県が行う調査をはじめ、地方公共団体が行う調査等についても、積極的に支援して行きます。

その他にもここで紹介しきれない多くの事業がありますが、近畿地方整備局及び関係す

る事務所において一所懸命に取り組んで行きたいと思います。引き続き、皆様方のご支援、ご協力をお願いします。

◇◆◇

３．「出水期への備え」

◇◆◇

近畿地方整備局　淀川河川事務所長の桑島偉倫です。

本年４月に前任の梅田に替わり淀川河川事務所に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

防災の話をさせていただくにあたり、まずは熊本地震により被災された多くの方々に、心からお見舞いを申し上げます。私も熊本県の八代市で２年間暮らしていましたが、大きな地震は少ない地域といわれていましたので、今回の大規模地震には驚きを禁じ得ません。

また、近年の洪水の状況を見ても過去に例のない出水となる場合が多く、その備えには万全を期すべきと考えます。

淀川河川事務所では、治水対策として平成 25 年の台風 18 号出水の再度災害防止対策や高規格堤防、堤防強化対策といった治水施設の整備（ハード対策）を進めているところですが、これまでに経験のない豪雨に対していかに住民の安全を確保していくかに関するソフト対策も車の両輪として進めていくこととしています。

沿川の住民の方々に潜在する「災害リスク」をいかに実感していただき、いざというときに自らの安全を守っていただく術とするのか、氾濫域でのリスクコミュニケーションツールを充実させていくことが重要となります。ハザードマップや既往の浸水実績をわかりやすく表示することもそのひとつであり、今後は地域に存在するハザードを、身の回りに投影する手段を広げる取組を進めていきたいと考えています。このためには沿川自治体との協働・協力が不可欠です。

いよいよ、５月に入りまもなく出水期を迎えますが、沿川地域で生活を営まれている多くの方々の安全・安心が確保されるよう、万全を期していく所存でおりますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◇◆◇

４．「神戸港の歴史紹介－着任挨拶に代えて」

◇◆◇

近畿地方整備局　神戸港湾事務所長の小野正博です。

4月1日付けで神戸港湾事務所長を拝命しました小野です。横須賀市にございます国土技術政策総合研究所空港計画研究室より参りました。前任の佐藤同様、よろしくお願い致します。

大阪生まれ、大阪育ちで、神戸は大変なじみのある土地ですが、運輸省時代を含め、神戸港に関わる業務に携わったことがなく、過去の歴史から鋭意勉強中です。

折しも、神戸港は1868年の開港以来、150周年を迎えようとしています。開港当初、関税行政上の見地から外国貿易施設は大蔵省で行われ、その後、内国貿易施設を所掌していた内務省が外・内貿の両施設を一体的に整備することになり、1934年（昭和9年）の組織再編により、神戸港湾事務所の前身となる神戸港修築事務所が設置されました。そして現在、国際戦略港湾として、ポートアイランド、六甲アイランドにおいて、大規模・大水深のコンテナバースを整備しております。一貫して国が港の整備の一端を担ってきたことは神戸港の特徴の１つであります。

全国で最初にケーソン工法を採用したのは神戸港です。オランダロッテルダム港で当時実施されたばかりの世界初のこの工法を学んだ建築技師森垣亀一郎が､1908年(明治41年)神戸港近代化発祥の地となる新港埠頭において、採用しました。

また、全国でいち早くコンテナ化に対応してきたのも神戸港です。開港100年目に当たる1967年（昭和42年)、全国で初めてコンテナ船（ハワイアン・プランター号）が摩耶埠頭第3突堤に入港し、ガントリークレーンで荷役されました。

神戸港の歴史は、人工島建設の歴史でもあります。昭和41年のポートアイランド着工に続いて、六甲アイランド、ポートアイランド2期、さらに沖合には、神戸空港が建設されました。

神戸港は将来まだまだ発展していく港です。歴史を汚すことなく職務に邁進して参る所存ですので、何卒よろしくお願い致します。

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

５．最近の動き

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

【１】熊本地震災害対応（先遣隊）について

企画部　総括技術検査官　板垣勝則

近畿地方整備局では、熊本地震以降、被災地に対しＴＥＣ－ＦＯＲＣＥやリエゾンの派遣、及び災害対応用機械を配備するなど支援を行っています。

平成２８年４月１４日２１時２６分に熊本地方で震度７の地震が発生し、私を含む７人の先遣隊が直ちに結成され、地震発生４時間後の深夜１時３０分に整備局を出発し九州に向かいました。

先遣隊の主な役割は、被災状況の把握と現地災対本部での連絡調整です。

１５日の午前１０時３０分頃に九州地方整備局に到着しましたが、災害対策本部では、既に各自治体にリエゾンを派遣し、現地の情報収集を行っていました。

現地災対本部での役割は、近畿地整から派遣するＴＥＣ－ＦＯＲＣＥや照明車、衛星通信車、災害対策車等の機械機器等の配備など円滑な情報共有でしたが、被災直後に余震が続き、日々情報が変わる中での調整役でした。

また、現地調査班は、熊本市内の橋梁を対象に被災調査を行うことになりましたが、渋滞する熊本市内を移動し、食料調達にも苦労しながらの現地調査となりました。そんな中、４月１９日に調査結果をまとめ、熊本市に報告書を提出し無事帰還することができました。

現在、整備局からのＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ・リエゾンの派遣は、延べ約８００人・日となり、他整備局からもＴＥＣ－ＦＯＲＣＥが派遣され、被災地に変わり現地調査を行っています。頻発する余震の影響もあり被災範囲の確定に時間がかかるなど、見通しが立てづらい状況でしたが５月に入りようやく一部リエゾンを残し、ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥの派遣を終えることができそうです。

近畿地方整備局では、近年　頻発する台風や地震、また近い将来起こるであろう南海トラフなどの大規模災害に備え、被災地支援が直ぐに行えるように体制を取っていますが、災害はそれぞれに違った状況下にあり、改めて自治体の皆様との連携の重要性を感じました。

最後になりましたが、被災地の１日でも早い復興に向け国土交通省では、引き続きインフラ復旧等の支援を行っています。今後共に近畿地方整備局等の災害支援にご理解・ご協力頂ければ幸いです。

◆近畿地整ホームページに『近畿ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ活動通信』を掲載していますのでご覧ください。

http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/saitaishien/view.php?id=23

【２】大規模土砂災害による被害根絶に向けて

近畿地方整備局　紀伊山地砂防事務所長　吉村元吾

4 月 24 日（日)、近畿地方整備局・和歌山県及び那智勝浦町の主催により、「大規模土砂災害技術センター入所及び和歌山県土砂災害啓発センター竣工」記念式典が現地で執り行われました。

昨年 5 月に和歌山県が建設に着工し、約 1 年で竣工を迎えた当施設は、紀州材がふんだんに使用された木造 2 階建で、那智大滝や那智大社への登り口にあたる大門坂駐車場に隣接し、観光客にも来館いただきやすいロケーションとなっています。

1 階には展示スペースと研修室が設けられ、観光客を含め一般の方の土砂災害に関する防

災知識の習得等に活用いただける施設となっており、大規模土砂災害対策技術センターが入所する2階は、土砂災害に関する調査・研究活動の拠点として、連携する大学や研究機関の方にも活用いただける環境を整えています。

式典当日は汗ばむほどの陽気に恵まれ、関係者、地元住民あわせて約450名に大規模土砂災害に対する取り組みの新たな一歩を見届けていただきました。

冒頭、山田近畿地方整備局長・仁坂和歌山県知事及び寺本那智勝浦町長からの挨拶に続き、来賓の二階衆議院議員及び鶴保参議院議員より祝辞を頂戴しました。皆様からは、平成23年紀伊半島大水害による甚大な被害を改めて思い起こし、災害の記憶や経験を後世に伝えていくことや、調査・研究活動を通じて土砂災害に関する知見を蓄積していくことを通じて土砂災害による被害を無くしていくことの重要性とともに、当施設が調査・研究の成果を広く発信していく基地となることへの期待が述べられました。

全国治水砂防協会からの書籍寄贈に続き、黒川大規模土砂災害対策技術センター長（整備局河川部長）より、これまでの活動成果の報告とともに、那智勝浦から世界に向けての発信を目指し調査・研究を進めていくとの決意表明がされ、テープカット・看板除幕の後、紀州材の香りに満ちあふれた建物内のお披露目が行われました。

土砂災害による被害の根絶に向け、多くの方に当施設を訪れて頂けるよう、また、土砂災害に苦しむ他の地域や海外の国々にも活動成果を広く発信していけるよう、関係者と連携して取り組みを進めていきます。

地域の防災・減災に日夜取り組んでおられる本通信の読者の皆様、ぜひ一度ご来館下さい。

和歌山県土砂災害啓発センターHP
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/080604/top.html

◇◆◇

６.おたよりコーナー

◇◆◇

これは､今から50～60年ほど昔､皆様の先輩たちが活動した環境の情景のひとコマです。堅い話は一切ぬきで、ほぼ私の記憶によるものです。間違いの多々あることはお許しのうえ、往時を偲んでいただければ幸甚に存じます。

『近畿の昔話』「千日道路」―王寺跨線橋の架け替え

高野浩二

JR王寺駅は、東からの関西本線、南からの和歌山線の結節点に当たり、合流した関西線

は、西、大阪に向かいます。併せて、近鉄田原本線が東から、生駒線が北から、いずれもJR王寺駅の北に隣接して終点駅となっています。その王寺駅の東はずれに近く、国道25号がほぼ南北方向に立体跨線する形で走っています。

お若い方は想像し難いでしょうが、その昔、国鉄の大部分は、蒸気機関車が牽引する客車、貨物車の列車でした。機関車の吐き出す煙には多量の亜硫酸ガスが含まれ、、直ちに近くの金属を腐食することから、蒸気機関車が通る跨線鉄橋は、その桁下に、防煙鈑と称する鉄板が付けてありました。

王子跨線橋は、昭和16年（1941）架設された鋼鈑桁下路橋でしたが、コンクリートスラブの下の床組の桁などは、かなり腐食が進んでいました。そのため、昭和43年度から、急遽、架け替え工事に入りました。

老朽化した跨線橋を、交通を通しながら緊急に架け替えるためには、いろいろな工夫が必要でした。加えて、周辺は都市化が進み、狭隘な土地条件の中での工事であり、かなりの難工事になりました。

まず、取り付け部を可能な限り拡幅し、現橋に隣接して、将来新橋の片側となる跨線橋を架設。これに交通を切り替えた後、旧橋を撤去。旧橋下部工などを補強。旧橋の位置に、別の片側の跨線橋を架設。最終的には、上下線を分離した形の新跨線橋が、昭和45年度に完成しました。狭隘な現場での下部工補強のため、本体の横方向に傾けられる斜杭打設機の開発は、その工夫の一つです。

この難工事を無事に完遂させたもの、それは、工事関係者の、安全な交通路を常に確保しなければならないとする、使命感、に他ならない、と、今も思っています。

◇◆◇

７．事務局から

◇◆◇

日頃は「近畿ゆめ通信」をご愛読いただき感謝申し上げます。
今回、事務局でピックアップした政策情報は下記の項目です。ご参考にして頂ければ幸いです。

琵琶湖の保全及び再生に関する基本方針を決定　～琵琶湖と人とのより良い共生関係の形成に向けて～　　（４月２２日）

http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi03_hh_000018.html

平成２８年度 官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業（第１回募集分）の実施について　　～第１回実施事業が決定しました～　　（４月２７日）

http://www.mlit.go.jp/report/press/kokudoseisaku09_hh_000064.html

来年度までに１５０km超のＧＳ空白区間をゼロに
～高速道路上のガソリンスタンド空白区間の解消に取り組みます～　　（４月２８日）
http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000671.html

水防月間(5月1日～5月31日)のお知らせ
～洪水から守ろうみんなの地域～　　（４月２８日）
http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000019.html

事務局では、読者の皆様から頂いたご意見、ご感想を参考に、より親しみのある「近畿ゆめ通信」づくりを目指しています。
皆さま方から頂いたご意見、ご感想を広く他の読者の方々に紹介するとともに更なる内容の向上を図るため、おたよりコーナーを設けております。
ご意見ご感想を本コーナーに掲載ご希望の方は「掲載希望」と明示し、所属・氏名を記入のうえメールまたはＦＡＸでお寄せ下さい。
なお、所属・氏名を掲載致しますことをご了承下さい。
【メール】　mailto:otayori@kkr.mlit.go.jp
【ＦＡＸ】　０６－６９４２－７４６３
近畿ゆめ通信をメールにて送信させていただいていますが、人事異動等で送信先に変更がございましたら事務局までご連絡ください。

◇◆----------

次号発行は、平成２８年５月２５日の予定です
「近畿ゆめ通信」を掲載したホームページは、下記のURLです。
http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/maga/yume/yume.html

----------◇◆

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆
◇◆　　＜発行＞　　◇◆
◇◆　　近畿ゆめ通信　事務局　　◇◆
◇◆　　電話　０６－６９４２－１１４１　　◇◆
◇◆　　内線２１１７　西海 俊幸　　◇◆
◇◆　　ＦＡＸ ０６－６９４２－７４６３　　◇◆
◇◆　　mailto: otayori@kkr.mlit.go.jp　　◇◆
◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆